

2021-2022 ガバナー月信

GOVERNOR'S Monthly Letter

5

2022
May



競走馬「ハイセイコー」の像(新冠町レコード館前)



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

国際ロータリー第2510地区 2021-2022年度 ガバナー 大日向 豊吉

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512

E-mail:rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

2021-2022年度 国際ロータリーのテーマ

「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」



国際ロータリー第2510地区 2021-2022年度地区目標

「世界に奉仕を 地域には感謝を」
「不忘感謝先人偉業」

- ① RI会長テーマの理解と促進
- ② リーダー育成の観点からRLIへの参加を促す
- ③ ロータリー情報の提供、広報、クラブ目標の設定などあらゆる手続きにおいてインターネットの活用を推進する
- ④ ロータリー財団、ポリオ根絶への理解を求め会員の積極的な理解を求める
- ⑤ ロータリー米山記念奨学会の活動への理解と協力を求める
- ⑥ 会員増強、Each One, Bring Oneの推進と「ロータリー奉仕デー」の実施
- ⑦ クラブにおける戦略計画の立案(未来ビジョンの策定)と目標の設定を推奨する

CONTENTS

●四つのテスト	1	●コーディネーター-NEWS	5
●会長エレクト研修セミナー(PETS)報告	2	●第1地域RRFC便り	7
●新会員のご紹介/米山記念奨学会寄付/ロータリー財団寄付	3	●地区カレンダー	13
●ハイライトよねやま	4	●会員数・例会数	14



四つのテスト

国際ロータリー第2510地区
2021-2022年度ガバナー

大日向 豊吉 (函館五稜郭RC)

第6グループのIMが4月17日、小樽朝里川温泉にて規模を縮小し、グループ内ロータリアン50名ほどが相集い実施をされました。

RI第2510地区においては今年度2回目のIMとなりました。

研修はグループディスカッション形式により実施され、一組6人がセレモニーの後、速やかにA～Hのテーブルに分かれ、名刺交換を行い、「クラブ運営」「会員増強」等々について意見交換をされておりました。

グループディスカッション後は、意見交換内容について各テーブル代表者から発表がされました。その中で特に印象に残った発表がありました。記述しますと次の2点でございます。

1. 私は入会して10年ほど過ぎておりますが、ロータリーの運営方法、会員増強等についての考え方は、時が経過しているにもかかわらず、入会した頃と現在でも些かも代わり映えがしていないこと。
 2. 岩内には100人ほど会員の集う団体があり、ロータリークラブに比べたら遥かに活気があり、魅力があること。
活気のある団体？
私はテレビの宣伝により、このような団体のあることを実は、承知しておりました。皆様、ロータリークラブが正直、自分自身に何を与えてくれていますか？
私は公式訪問の際にも話し続けてきました。
1. クラブの魅力を高めるためには、会員による内部卓話を実施して下さい。
 2. そのことにより会員同士、心底知り合い信用・信頼を得、ビジネスによる相互扶助に繋がして下さい。
 3. サービスは決して無償奉仕ではないのです。ロータリークラブはインターナショナルあり、単なる相互扶助の団体ではないのです。
他団体との大きな違いは
1. 人間性の「養正」道場であること
 2. 青少年を育成すること
このことを明確に示しているのが、『四つのテスト』でございます。

ご案内のとおり、この四つのテストの創案者であるハーバートJ.テラー氏は行動家で信仰心が篤く、道義を重んじる人でした。

1923年ジュエル・ティー社の次期社長候補であった彼は退職し、破産寸前にあった会社を四つのテストにて立て直したことは有名な話でございます。

四つのテストは、ビジネスと言う厳しく、変転極まりない世界に生まれ、経済界が経験した最も過酷な時代の中で、厳密な試練を経てきたのです。

実業界と言う競争の場で生き残ってきたのです。
真実かどうか：真実は不変であり、時代を超越するものです。

真実は正義無くして存在し得ません。

みんなに公平か：激しくやり合うビジネス手法に代わり公平さを取り入れたビジネスは、お互いの関係を傷つけるよりも、関係向上に役立ちます。

好意と友情を深めるか：人は生まれながらにして他者と協力して生きていく存在である。

愛情を示すことは生来備わっている本能です。

みんなのためになるかどうか：この意味するところは、食うか食われるかを原則とする無慈悲な競争を排除することであり、代わって、建設的で創造的な競争を導入することにあります。

最終的に四つのテストは実際に行動してみることに大きな意味があります。

今日のロータリーの中核には、論理的卓越性を使命とする四つのテストが存在します。

現代社会が最も必要としているのは論理的誠実さではないでしょうか？

四つのテストは、人々が価値ある目標を追い求める際の指針として活用できます。

その目標とは、友人を探し選び、その友人関係を維持する事。周りの人たちと友好関係を築くこと。幸福な家庭をつくりあげること。高い論理的・道徳的基準を設定し身につけると。自ら選択した事業や専門職で成功を取めること。より良き市民となり、次の世代にとっての良き手本となること等々を挙げてみる事が出来ます。

四つのテストが、これからも皆様の人生とクラブ繁栄の指針とし存在し続けますことを祈念申し上げます。

会長エレクト研修セミナー (PETS)報告

次期地区
代表幹事

河口 義憲
(札幌西 RC)



コロナ情勢より Web会議となりましたが、3月26日に会長エレクト研修セミナー (PETS)、翌27日に米山セミナー、ロータリー財団セミナーが行われました。PETSでは次期会長となる69名の方が参加され、大日向ガバナーの挨拶に始まり、嵯峨次期地区研修リーダー (PG) の話につき、石丸ガバナーエレクトの挨拶となりました。初めての女性次期国際RI会長、ジェニファージョンズからの” imagine rotary”のテーマをビデオで拝聴後、それを受け石丸GEが、「ロータリーに想いを馳せて」という次年度の第2510地区テーマと、GEの思いを話されました。次期ガバナー補佐の紹介後、各地区委員会次期委員長からの詳しい説明がありました。その後、会長エレクト全員を8つのグループに分け、ガバナー補佐によるディスカッションリーダーと、研修委員PG、各地区次期委員長のアドバイザーで、「クラブ活性化に向けて」というテーマでグループセッションとなりました。100分の時間があっという間に過ぎ、活発な意見交換後、各グループ



の討論内容が披露されました。今後のクラブ運営に際し大いに参考になるものと思われました。翌日28日は米山セミナーで始まりました。この事業は全国ロータリアンの寄付金を財源とする国際奨学事業で、将来日本と世界を結ぶ懸け橋となり、ロータリー運動のよき理解者となる人材を育成する為のものです。1952年東京RCで始まったこの制度は、全国の合同事業として発展し、現在2万人以上の奨学生を支援する日本最大の民間奨学事業です。大日向ガバナーの挨拶に始まり、嵯峨米山記念奨学会理事からその歴史的経緯の話があり、東次期地区米山記念奨学・学友委員が1年間を振り返りました。最後に札幌西RCが世話クラブになっている、モンゴルからの奨学生ボロルツェツェグさんから、自身の将来の夢を含む体験談があり、最後に入井次期地区米山記念奨学・学友委員長からの総括で終了しました。午後から引き続きロータリー財団セミナーがありました。松原次期地区ロータリー財団委員長から財団の概要についての説明に続いて、大川次期地区財団補助金委員長、長沢次期地区ポリオプラス委員長、松原地区財団奨学金・平和フェロー委員長、菅原副委員長、瀧澤次期地区ロータリー財団委員、富岡地区国際奉仕・VTT委員長からそれぞれの詳しい説明があり、その後、林次期地区ロータリー財団委員が質問をうけ、またウクライナ支援を訴えていました。最後に大日向ガバナーからの所感をいただき、その中で、「既に石丸GE期は始まっている」という言葉が印象的でした。また石丸GEから参加の全会長エレクトに謝辞があり終了となりました。長時間お疲れ様でした。

新会員のご紹介

(敬称略)



札幌はまなすRC
佐々木 徳焼
令和4年4月5日入会
電力供給



浦河RC
定 蛇 拓 二
令和4年4月5日入会
電力供給

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

岩見沢RC	菅野 聖人 会員	(2回)	3月31日
江別西RC	石黒 良平 会員	(14回)	3月23日
札幌清田RC	森 加名恵 会員	(1回)	3月16日
静内RC	山田 一孝 会員	(5回)	3月9日

米山功労クラブ

岩見沢RC	(41回)	3月31日
札幌清田RC	(5回)	3月16日

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

メジャードナー

札幌北RC	出村知佳子 会員	(レベル4)	3月21日
-------	----------	--------	-------

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

恵庭RC	大川 武志 会員	(2回)	3月3日
羽幌RC	福井 俊一 会員	(3回)	3月15日
函館東RC	五十嵐 稔 会員	(2回)	3月15日
函館東RC	宮崎徳三郎 会員	(3回)	3月15日
函館五稜郭RC	狷々谷勝文 会員	(2回)	3月24日
函館五稜郭RC	窪田 良弘 会員	(3回)	3月24日

函館五稜郭RC	奥田 武彦 会員	(4回)	3月24日
函館五稜郭RC	岡田 恒男 会員	(5回)	3月24日
室蘭北RC	川本 康裕 会員	(5回)	3月25日
札幌手稲RC	石川 信行 会員	(1回)	3月15日
札幌手稲RC	丹羽 祐而 会員	(1回)	3月15日
札幌手稲RC	高張 秀人 会員	(2回)	3月21日

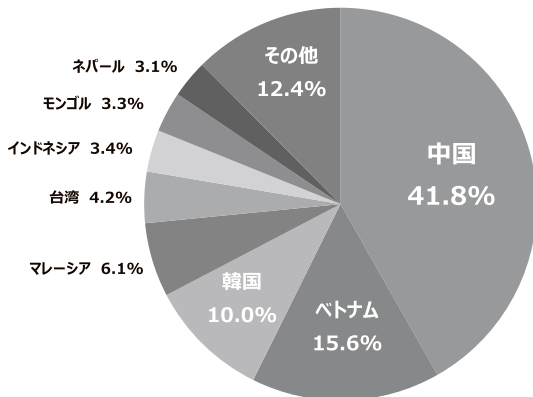
ポール・ハリス・フェロー

札幌北RC	林 里紅 会員	3月8日
-------	---------	------



1. 2022 学年度の奨学生

2022学年度の奨学生は昨年度より10人減の900人となりました。新規採用者619人、継続者281人です(4月8日現在)。国・地域別にみると、



中国41.8%、ベトナム15.6%、韓国10.0%、マレーシア6.1%、台湾4.2%の順です。プログラム別では、学部・修士・博士課程奨学金が850人(学部430人、修士218人、博士202人)、地区奨励奨学金16人、クラブ支援奨学金8人、海外学友会推薦奨学金3人、海外応募者対象奨学金23人となっています。4月末までに各地区でオリエンテーションが開催されます。オリエンテーションは、奨学生とカウンセラーが出会い、奨学生としての義務やロータリーについて理解してもらう場です。確約書に署名をした後、正式に米山奨学生となります。どうぞ温かくお迎えください。

2. 巣立った奨学生へ —カウンセラーからのメッセージ—

米山奨学生のカウンセラーには年に2回、所見の提出をお願いしています。今回はその中から、今年3月にロウ卒業した中国出身の米山奨学生、^{ロウセン}盧嬋さんのカウンセラーを務めた松林茂会員(東京セントラルRC)からのメッセージを紹介します。

<カウンセラーからのメッセージ>

2年間、当クラブでお世話をしたロウセンさんの卒業にあたり、カウンセラーとして最後の報告をします。2年間とはいえコロナで例会も途切れがちとなり、ロウセンさんに対して十分な配慮ができたかどうか、自責の念にとらわれます。体感としては8カ月ぐらいしかお世話できていない感じです。他の会員にしても同じような感覚ではないでしょうか。



3月の例会卓話では、彼女が東京大学大学院博士課程で醸造について学んできたことを、われわれにわかりやすく解説してくれる予定でした。コロナの影響でそれも叶わず残念です。大昔、ロウセンさんの故郷・中国から日本に伝わった酵母。これを使った醸造により作られた味噌・醤油・お酒は、日本の食文化に欠かせないものです。若い

ロウセンさんがその中国から日本に勉強に来られていることに、先人たちの色々な交流の果てにわれわれが今を生きていることを実感します。

卒業後の彼女の進路がどのようなものになろうとも、日本の良き理解者として、中国との懸け橋として、今後大いに活躍されることを祈っています。

3. 寄付金速報 — 今年度初めて前年同期比増へ —

3月までの寄付金は前年同期と比べて0.1%増(普通寄付金:0.9%減、特別寄付金:0.6%増)、約50万円の増加となりました。今年度に入り、前年同期よりも寄付累計額が増額になったのは初めてで、少しずつではありますが回復傾向に

あります。ロータリアン皆さまからのご支援に厚く御礼申し上げます。まだコロナ感染者数も減少せず、不安な日々が続いていますが、これからもご協力を賜りますようお願いいたします。

会員増強からモチベーションアップへつなげる

長い時間をかけてようやく新しい会員の入会にこぎつけて安堵したのも束の間、親しかったクラブの仲間が退会するという情報が耳に入ってやりきれない思いに……。こうした事態は達成感のカウンターのよう、高まっていたテンションを打ち砕いてしまいます。会員数だけでなく、会員の高齢化もクラブのポテンシャルをダウンさせてしまうでしょう。今では、新型コロナウイルスの連波にあわせてクラブ例会がストップしてしまい、ロータリーに対するモチベーションが損なわれて、いつの間にか寒風が吹くようになってしまったというクラブも増えているかもしれません。新型コロナウイルスと共に過ごさざるを得ない昨今、モチベーションの維持こそが緊急課題のように思えてなりません。

会員増強というテーマを数量達成のテクニックとして受け止めるだけではなく、ロータリーに対するモチベーションアップというところにつなげて考えていくということに強い関心をもってきました。ロータリーに入会しても、ロータリーの魅力や醍醐味を体感しないまま漫然とロータリーを続けている人（恥ずかしながら、かつての自分の姿です）や、ロータリーを理解するに至らないまま入会して間もなく退会してしまう人がたくさんいるということを知ると、胸を締め付けられるような気持ちになります。会員増強から在籍の定着、つまり会員維持につなげなければ何の意味もない。さらに言えば、在籍期間だけでなく、ロータリアンとしてロータリーに対する熱い思いを増幅させていかなければ、アクティブなパワーは生まれてこないし、持続可能なロータリーにはならないとも思ってしまう。

ロータリーへのモチベーションや高い目的意識を保ち続けていくには、研修セミナーやミーティングを通して、向上へのスイッチを入れたり学びや情報入手を習慣化するといった一連性も必要だと思います。掲げた目標に対して経過や結果を放置せず、きちんと確認して次の段階に活かしていくというスタイルも強く意識しなければならないと思います。

戦略計画には、会員増強と会員維持と会員資質向上をリンクさせた総合性のあるコンテンツが必須だと思いますし、行動計画として具体的に実行していくことが次の会員増強に弾みをつけることになるかと確信しています。

●MISSION：POSSIBLE～私たちにできること～

会員増強にしても奉仕活動にしても、最初から否定的に考えてしまうことがあると思います。見かけ上は謙遜や謙譲といった美德のように受け止められるかもしれませんが、ロータリーにおいてはモチベーションアップになりません。プラス志向による立場や行動こそが、ロータリアンとしてのステップアップになると言い切りたいと思います。

上記の目線で作成したテキストを添付しますので、ご活用いただきたいと思っております。

Rotary



Region 1 & 2 & 3

コーディネーター 2022年5月号 No. 2

NEWS

発行：Region 1 & 2 & 3
 ロータリーコーディネーター
 ロータリー公共イメージコーディネーター

世界ポリオデー 2022 in Japan

2年余に及ぶ新型コロナウイルスの影響で、ロータリー活動にも大きな変化が生まれました。ソーシャルディスタンスを保ちながら、例会、そして人道奉仕活動を継続していただきありがとうございました。

多くの皆様は、コロナワクチンの3回目のブースター接種を済まされたことと思います。政府は第4回目のワクチン接種も計画していると報じられています。改めて、ウイルスの感染防止に対して、ワクチンの重要性を再認識することになりました。ロータリーは30数年も「ポリオ根絶」に取り組んできました。

日本国内においてポリオはすでに忘れられた存在になっており、ポリオの意識は低いです。日本国内では、2012年9月から不活化ワクチン注射接種が始まりました。現在は、生後3か月から12カ月の間に3回、その後追加接種で1回、合計4回の接種が行われています。日本でも毎年ワクチンを接種し続けないと海外からポリオウイルスが入ってくることによる感染リスクも考えられます。

「ポリオ根絶」はロータリーの最優先事項、ワクチン接種の継続こそが根絶への鍵であります。達成まであと少しです。

コロナを経験して、日本でも再度「ポリオ根絶」に力をいれていきたいと願っています。残り後2か国ですが、生ワクチンや不活化ワクチンの接種を継続していかなければなりません。ワクチンの代金、それを保存、運搬するクーラーなどに、まだまだ多くの費用が掛かります。皆様ご存知のように、ビル&メリンダ・ゲイツ財団がロータリーの資金に対し、2倍のマッチングを行っているので、皆様のポリオプラスのご寄付が3倍になるわけです。その支援がある間にぜひ、根絶したいと思います。

国際ロータリーでも、10月24日の「世界ポリオデー」には全世界で認知度を高め、寄付を募るイベントをしています。

今年は、日本各地で、地区単位、クラブ単位での世界ポリオデーイベントを企画、実施してポリオ根絶に挑戦したいと思います。今年は、ポリオ根絶コーディネーター(EPNC)はもとより、ロータリー公共イメージコーディネーター(RPIC)の皆さんがこの世界ポリオデーのイベントを地域や日本全国にメディアを使って発信し、ロータリーの認知度やイメージの向上につなげ、そして、会員増強までつなげたいということで、ロータリーコーディネーター(RC)の皆様、さらに、恒久基金/大口寄付アドバイザー(E/MGA)、と協働して、地域リーダー全員で「世界ポリオデー」を盛り上げて行くことができたらいいなと思っています。

第2地域 RRFC 服部 良男(愛知三州RC)

第1地域 RRFC便り 4月号

ウクライナ危機へのロータリーの対応



災害救援基金へのご寄付

ロータリーは、ウクライナにおける状況と、人命の喪失および人道的危機が深刻化していることを深く懸念しています。私たちは地域に根づいたネットワークと数十年にわたる経験を生かし、現地で迅速に行動を起こしています。

ロータリーによる救援活動の支援方法について、以下の情報をご覧ください。

[この基金についてご寄付はこちら](https://my.rotary.org/ja/disaster-response-fund)

<https://my.rotary.org/ja/disaster-response-fund>

■ 地区財団活動資金の活用

「地区は、この基金に、地区財団活動資金（DDF）を寄贈することができます。」現在から2022年4月30日まで、ロータリー地区は未配分のDDFを災害救援基金に充て、ウクライナと関連する人道的補助金を支援できます。

[詳しくはこちら](https://rotary.qualtrics.com/jfe/form/SV_9ztdKml8KEamNmt?Q_JFE=qdg)

https://rotary.qualtrics.com/jfe/form/SV_9ztdKml8KEamNmt?Q_JFE=qdg



■ 災害救援補助金の申請



ロータリー地区が災害救援基金から補助金を申請する方法をご覧ください。迅速な手続きが行われるこの補助金は、水、食料、シェルター、医療品、衣服といった救援物資を含め、この危機による難民や被災者の支援に利用できます。

[申請はこちら](https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/rotary-disaster-response-grants)

<https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/rotary-disaster-response-grants>

■ クラブ・地区による救援活動の連絡先と支援方法

ウクライナと近隣地域では、多くのクラブと地区が人道支援活動を行っています。

ロータリークラブや地区の協力を得る方

法、難民の宿泊に関する連絡担当者、その他の各地での取り組みについてご覧ください。各地のプロジェクトを直接ご支援いただけます。

[救援活動のリストとその連絡先はこちら](https://my.rotary.org/ja/document/ukraine-locally-led-efforts)

<https://my.rotary.org/ja/document/ukraine-locally-led-efforts>



■ロータリーによる救援活動のストーリー



ウクライナ難民に情報、移動手段、医療品、シェルターを提供するため、欧州や世界各地のロータリークラブとローターアクトクラブが、周辺地域の会員とともに支援活動に乗り出しています。

クラブの活動について読む

<https://www.rotary.org/ja/rotarys-network-enables-rapid-humanitarian-relief-for-ukrainian-refugees>

■キエフを逃れたウクライナ人会員からのレポート



<寄稿者：イリーナ・ブシュミナさん
第2232地区 [ウクライナ] ローターアクト代表>

戦争勃発から数時間以内に、私は姉夫妻と生後3カ月の甥、そして一匹の猫とともに、車でキエフを逃れました。国境に着いたときには既に男性の出国が禁止されていたため、義理の兄を残して国外に脱出しました。5日

間の運転を経て、6日目にウィーン(オーストリア)にたどり着きました。

その途上の3泊は、ホテルではなく、ロータリアンやローターアクターの自宅に泊めていただきました。国際ロータリーが大家族であるとはよく言われますが、この時にそれを実感しました。いつでも支えてくれるのがロータリーファミリーであることを、肌身で感じました。

欧州のローターアクトを動員することを思いついたのは、車で移動中のときでした。助けとサポートが必要なのは私だけではないことに気づ

いたのです。姉が運転中だったので、私はスマホを手に、ローターアクターたちとのすべてのチャットに、ウクライナの状況についてメッセージを送りはじめました。大勢のローターアクターからすぐに返信があり、多くの人たちが即座に支援グループをつくって、私がまとめ役となれるよう援助してくれました。入念に計画されたプロジェクトとは言えませんが、初日から始動できました。

ローターアクターたちは迅速に対応してくれました。私は、ウクライナのロータリアンとローターアクターが国外で宿泊先を見つけられるようにする小規模なプロジェクトを即座に立ち上げる必要があると気づきました。今やこのプロジェクトは拡大し、多くのウクライナ人が新たな家を見つけられるよう支援しています。難民の受け入れを申し出たホストファミリーの数は、2,000を超えています。私たちは、移住の支援、宿泊先の手配、そのほかの人道的支援など、さまざまな要請に対応しています。

現在は、防衛隊のためのヘルメット、熱探知カメラ、防弾チョッキなどの物資の支援という大きな要請が届いています。食料や水といったシンプルな必需品を要請してくる町がありますが、そういった要請には特に心が痛みます。市民への人道支援物資の供給がロシア軍により阻害され、飢えや脱水症で人びとが亡くなっているからです。私が取りまとめている国際的チームには100人以上、ウクライナ人チームには50人ほどのメンバーがいます。

ウクライナ支援に参加しているローターアクト会員が実際に何人いるのかはわかりません。各国で独自のプロジェクトが展開されており、クラブごとの支援活動も行われています。支援のレベルはさまざまですが、どんなにささやかな寄付も価値があり、それで命が救われる可能性があります。

私たちは以下の四つのことに取り組んでいます：

1. ウクライナの状況について事実を伝えること
2. 避難したウクライナ人のための宿泊先を見つけること
3. 人道支援物資を送ること

4. 経済的支援を確保すること

すべての人から感謝の言葉が返ってくるわけではありませんが、正直なところ、それは期待していません。恐れやストレス、国境での数日にわたる立往生など、この人たちが置かれた状況を考えれば、「ありがとう」などと言う義理はないのです。私たちは、この人たちの安全を確保し、苦難を乗り越えられるようにするために全力を注ぐのみです。今こそ、理解する心が大切です。もちろん、感謝のメッセージをいただいたときには嬉しく思います。

ロータリー財団はウクライナ地域での直接的人道支援の窓口を設置しました。ロータリー会員による支援活動については、Twitter (英語、日本語)、Facebook (英語/日本語)、Instagram、LinkedIn、Rotary.org、My Rotary をご覧ください。

■ 専門家グループ(Cadre)コネクション

委員長からのメッセージ

プロジェクトの成功は、共に意思決定を行い、会員からの積極的な参加を促す提唱クラブにかかっています。また、プロジェクトを成功させるためには三つの重要な要素があります：

- **知識**：技術的知識は、有意義なプロジェクトを立案するのに不可欠です。プロジェクトチームは、ロータリー財団の指針やリソースについて精通している必要があります。これには、グローバル補助金ガイド、地域調査の方法、重点分野の基本方針に記載されている資格基準などが含まれます。
- **戦略**：プロジェクトの計画は戦略的でなければならず、その指針としてロータリーの行動計画を参照することができます。行動計画は、インパクトを測定し、ロータリーと人びとのつながりを深め、ロータリーへの参加によっ



2021-24年度ロータリー財団
専門家グループ委員長
マルセロ・ハイクさん

て生まれる価値を示して積極的なかわりを促し、イノベーションに対してオープンな文化をつくる上で役立ちます。地区は、プロジェクトの立案、実施、評価でクラブを支援できる地元の専門家から成る地区リソースネットワークを構築する必要があります。クラブや地区は、ロータリー財団専門家グループ (Cadre) や ロータリー行動グループからのサポートを受けることができます。

- **親善**：プロジェクトの流れを通じて、クラブ会員は地域社会のリーダー、パートナー団体、あまり支援を受けていないグループの人たちと交流します。これこそ、私たちの活動の本当の価値です。私たちが出会うすべての人たちの尊厳、価値、貢献を称える機会を大切にしなければなりません。

私たちは、より大規模なプロジェクトを実施したいと願うクラブや地区のためのチャレンジに乗り出しました。このチャレンジとは、ロータリー会員からの参加を促しつつ、地元の専門家の知識を生かすことができる地区リソースネットワークの強化を奨励することです。また、ロータリーや会員が達成したことに関する認識を高めるため、プロジェクトのインパクトを評価し、広報していくことも奨励します。充実したプロジェクトの立案を手助けする専門家グループと一緒に活動しましょう。よろしく願いいたします。

2021-24年度
ロータリー財団専門家グループ委員長
マルセロ・ハイク

■ PHS 認証式が札幌市で開催決定！

ポール・ハリス・ソサエティー」(以下PHS)会員の皆様、ご入会を希望される皆様に『ロータリー財団』へのご支援に感謝を申し上げ、新たに入会された皆様の認証式、懇親会、情報交換会並びにファンディングや親睦を目的に「PHS 認証式」を開催いたします。第1地域で開催いたしますが、第2・第3地域の皆様のご参加も大歓迎です。

初の試みでございますが、皆様お誘い合わせの上奮ってご出席くださいますよう宜しくお願い申し上げます。「世界でよいことをしよう」の実

実践継続のため、札幌で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

—開催要綱—

1. 前夜祭 4月23日(土) 18時(集合17時)
場所 札幌ビール園(札幌市東区北7条東9丁目2-10 TEL0120-150-550)
2. 認証式 4月24日(日)開宴11時
(登録開始10時)
場所 プレミアホテル-TSUBAKI-札幌
(札幌市豊平区豊平4条1丁目1-1 TEL 011-821-1111)

<参加費>お一人¥15,000(参加費、飲食代、ポリオ根絶支援金)※参加費には公益財団法人ロータリー日本財団を通じたポリオプラス基金への寄付3,000円が含まれています。

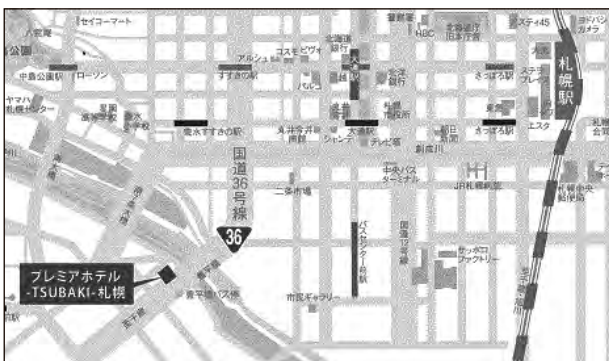
<締切日>2022年4月1日(金)必着

<お申込>参加費：各地区ガバナー事務所を通じてお送りください。

<札幌ビール園>



<プレミアホテル-TSUBAKI-札幌>



■ロシアのウクライナ侵攻に平和を願う

ロシアがウクライナに侵攻してから1ヶ月が経過しました。戦果は街を焼くつくし多くの市民の方が亡くなっています。将来を託された子供

も年老いた方々までも犠牲になっています。戦争に何一つ正義はないと思います。今回第1地域RRFC 4月号では、ロータリーの対応と「ウクライナの支援」と「平和への願い」をテーマに皆さまと一緒に考えて参りたいと思います「ロータリー会員は、奉仕を通じて、平和を概念から現実にできる」と、エド・フタ氏(国連に対するロータリー代表)は述べました。「平和は概念として説くものではなく、実現すべきものです」

2012-13年度田中作次RI会長のテーマ「奉仕を通じて平和を」を強く思い出します。広島で開催された集いにも参加しました。私は田中作次元RI会長の挨拶に感動しました。『平和に向けた努力は、すべての人、家族、クラブ、地区、地域、そして国から始まると思います。ロータリーの中核にあるのは、奉仕の力に対する信念です。奉仕を優先すれば、自分よりも他者のニーズが優先され、考え方ががらりと変わり、人々が抱える困難に対し、深い同情の心が生まれます。人々を助けよう、人々がもっと幸せになるよう自分にできることをしよう、という気持ちがさらに湧き上がります。』(田中作次元RI会長の言葉) 私がガバナーを務めさせて戴いた2014-15年度の終了前、平和フェローの冠名基金に申し込みました。世界で唯一の被爆国なのですから、この酷い現実を世界に訴えるべきだと思います。そしてウクライナに1日も早い平和を願わずにはおられません。(羽部記)。2017年11月11日ジュネーブ平和週間の最後の日を「ロータリーデー」として、ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長は、ロータリーと国連の長年にわたる協力関係と、「平和と国際理解の追求」に言及し、しめくくりました。このイベントのハイライトとして、ジョン・ヒューコ事務総長が、2017年の「世界を変える行動人：平和の推進者」(People of Action: Champion of Peace)を発表し、「組織の活動の範囲・影響力」を称え、「より平和的な、より活力のある社会になるための道しるべ」を示したことを称えました。

<https://www.rotary.org/ja/peace-focus-rotary-day-un>

ロータリーは「平和な世界づくり」を推進しています。今日、紛争、暴力、弾劾、人権侵害によって家を追われた人の数は7000万人。その半

数が子どもです。このような状況を、私たちは絶対に受け入れません。ロータリーは、異文化交流を通じて相互理解の心を育て、紛争解決のスキルを備えた人材の育成を通じて平和な世界づくりを促進しています。平和な環境をつくるロータリー人道的組織として、平和はロータリーの使命の礎となるものです。私たちは、地域社会での平和構築のために人びとが協力すれば、その変化が世界的な影響を生むと信じています。

<https://www.rotary.org/ja/our-causes/promoting-peace>

ロータリー会員は、奉仕プロジェクトや平和フェロー・奨学生への支援を通じ、貧困、差別、民族間の衝突、教育機会の欠如、リソースの不平等な配分といった紛争の根底にある問題に取り組むために行動を起こしています。ロータリーは、新たな課題に応えるために平和構築へのコミットメントを高めています。

ロータリーが未来にインパクトをもたらすには何ができるか、持続可能な変化を目指すロータリーのビジョン声明をどのように実現できるか、といった課題に取り組むべく、ロータリーは「平和構築」の定義をさらに広げ、より多くの方が平和構築に参加できる方法を見つけることで、団結と幅広い参画による平和という概念に基づくアプローチを取っています。ロータリーは、平和が可能となる環境を築いています。

平和の推進におけるロータリーの4つの役割

ロータリーとロータリー会員が担う役割：

- **実践者**：疾病との闘い、水と衛生、母子の健康、教育の支援、地域経済の発展といった分野でのロータリーの活動は、平和な社会への最適な条件を作り出します。
- **教育者**：ロータリー平和センターは、効果的な平和の推進者となる1,300人の平和フェローを育成してきました。卒業したフェローは、政府、教育、国際機関などで平和分野のキャリアを築いています。
- **調停者**：ロータリー会員は、ポリオの脅威にさらされた地域のすべての子どもにワクチンを投与するため、紛争地域における人道的停戦の交渉を行ってきました。

- **提唱者**：ロータリー会員は、平和構築や紛争後の復興プロセスに積極的にかかわり、重要な役割を果たしています。<https://www.rotary.org/ja/our-causes/promoting-peace>



東本願寺の桜と西行法師の和歌

「以前大河ドラマ『平清盛』でも、紹介された人物佐藤義清（さとうのりきよ）は平安末期の北面の武士で、名家に生まれた義清は、若い頃から和歌や武芸に優れており、鳥羽上皇の警護を担うエリート武士団・北面の武士の一員に選ばれるほどの人材でした。ドラマでは主人公の平清盛と同じ北面の武士としての友情や侍賢門院璋子との恋に落ちたシーンを俳優の藤木直人さんが見事に演じていたことを思い出します。



＜晩年の西行法師を描いた肖像画＞

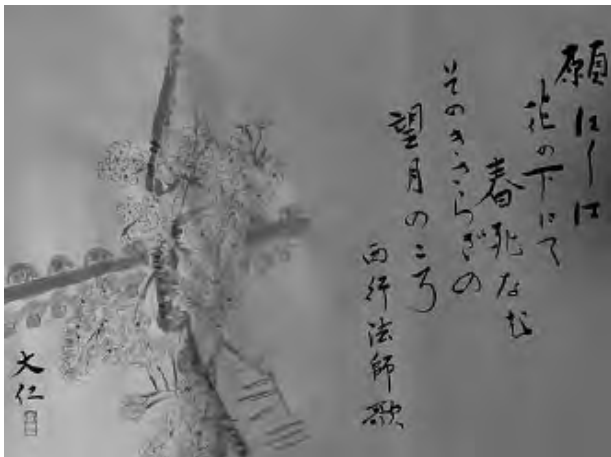
西行法師の出家の原因は、璋子とのロマンスだと言われています。先日お亡くなりになりました瀬戸内寂靜さんも大恋愛（不倫）が原因で出家されたとご自身がいつも平然と話をされていました。

百人一首の86番目に西行法師が出てきます。

「嘆けとて月やはものを思はするかち顔なる
わが涙かな」

この和歌は「月前の恋」をテーマに詠まれた恋歌で、涙の正体は愛しい人を思う心だったに違いありません。出家しても人の世を愛し続けた西行の人間味が溢れています。今回紹介した和歌は

「願はくは花の下にて春死なむそのきさらずの
望月のころ」です。



西行法師は無類の桜大好き人間だったようです。有名な吉野桜は西行の心を仕留めて離しませんでした。

そこで西行はそこに庵を結んで暮らしていたというのですから驚きます。西行は生前詠んだ歌に死ぬ時はこのように死にたいものだと願っていたようです。願うことなら、旧暦2月15日はお釈迦様の涅槃会（御命日）、この2月15日の満月の頃に、満開の桜の下で死にたいものだと詠われたのです。新暦では3月の下旬の頃でしょう。丁度桜が満開の時期に、自ら望んだ日だったと思われます。

西行は文治6年（1190年）2月16日、73歳の生涯を終えました。即ちお釈迦様の御命日の一日後になくなったのです。「念ずれば花開く」と言われますが、自分が望んだ1日後に亡くなっていった西行の生き様に驚嘆したことでしょう。最後に我が浄土真宗の御開山親鸞聖人は9歳のお得度に際しての有名なエピソードがあります。それを紹介して4月号を結びたいと思います。

『明日ありと 思う心のあだ桜 夜半に嵐のふかぬものかわ』

それは源平の戦の最中でした。父日野有範は朝廷を辞して出家して有範入道として難を逃れました。長男として生まれた聖人は僅か9歳にして青蓮院の慈円僧正を師と仰いで、日没後人眼を避けて比叡山を登り、青蓮院を目指したのです。夜半遅くに到着します。慈円僧正に得度を願いますが、このような遅い時間を子供の足でさぞ難儀であったでしょう。明日ゆっくりとお話をお聞きします。今夜はお休みなさいと得度のお式は延期となったのです。休むことも出来ずに庭を眺めていると境内に咲き誇る桜の花が飛び込んできました。よく眺めていると膨らんだ花弁から一枚また一枚と花弁が散って行くのを眼前に詠んだ歌が先ほどの歌だと言われています。

自分は未だ若い身の上であるが、捕らえられれば生きていくこともできません。この桜の花びらのように夜半に風は吹いたら、嵐がくれば直ちに散っていかなければなりません。明日の保証もありません。何卒お得度をお願い申し上げます。という願いが込められていたのです。それを聞いていた慈円僧正は、お供を集めて夜中ですが得度の儀式が挙行されました。以来本願寺ではお得度の際、唐戸を締め切り真っ暗の中に灯明を立ててお剃刀の儀式が行われています。この時の故事に習って聞いております。

今月は私が2020年11月から勤めております浅草東本願寺の境内本堂前にある桜を描きました。（羽部記）

地区カレンダー 5月・6月

5月 青少年奉仕月間

1 日	
2 月	
3 火	憲法記念日
4 水	みどりの日
5 木	こどもの日
6 金	
7 土	
8 日	
9 月	
10 火	
11 水	
12 木	
13 金	
14 土	岩内RC創立60周年記念式典：中止
15 日	第1グループIM(留萌)：中止
16 月	
17 火	
18 水	
19 木	
20 金	
21 土	全国RYLA研究会(鳥取)～22日 苫小牧東RC創立30周年記念式典 第12グループIM(苫小牧)
22 日	
23 月	札幌北RC創立50・51周年記念式典
24 火	
25 水	
26 木	
27 金	
28 土	江差RC創立60周年記念式典：中止 RYLAセミナー(三笠) ～29日
29 日	
30 月	
31 火	札幌はまなすRC創立30周年記念式典：中止

6月 ローターリー親睦活動月間

1 水	
2 木	
3 金	
4 土	国際大会(～8日) アメリカ・ヒューストン
5 日	
6 月	
7 火	
8 水	
9 木	
10 金	
11 土	函館亀田RC50周年記念式典：中止
12 日	
13 月	
14 火	
15 水	
16 木	インターアクト年次大会 (定山溪)
17 金	
18 土	
19 日	現新地区委員・ガバナー補佐合同引継ぎ会議(札幌)
20 月	
21 火	
22 水	
23 木	
24 金	
25 土	第49回ローターアクト地区大会(千歳)
26 日	
27 月	
28 火	
29 水	
30 木	

2022年5月のローターリーレポートは地区HPをご覧ください。

会員数・例会回数報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			
			'2021.7.1	'2022.3.31	増減	内女性
1	深 川	1	32	33	1	2
	羽 幌	1	36	34	-2	1
	留 萌	1	25	25	0	4
	小 計		93	92	-1	7
2	赤 平	1	20	20	0	2
	芦 別	0	28	27	-1	2
	砂 川	2	39	38	-1	1
	滝 川	3	84	86	2	5
	小 計		171	171	0	10
3	美 唄	3	22	20	-2	0
	江 別	5	36	37	1	1
	江 別 西	0	35	35	0	3
	岩 見 沢	2	91	91	0	1
	岩 見 沢 東	2	17	14	-3	2
	栗 沢	1	18	17	-1	1
	栗 山	1	25	25	0	4
	当 別	3	26	24	-2	0
	小 計		270	263	-7	12
4	札 幌	4	121	121	0	2
	札幌はまなす	4	17	16	-1	2
	札 幌 北	3	38	38	0	4
	札幌モーニング	4	36	37	1	0
	札 幌 西	1	50	48	-2	9
	札幌西北	3	30	34	4	3
	札幌手稲	3	34	32	-2	3
	小 計		326	326	0	23
5	札 幌 東	4	113	108	-5	0
	札幌清田	1	11	11	0	3
	札幌幌南	4	59	59	0	3
	札幌真駒内	4	20	20	0	5
	札幌南	3	76	78	2	3
	札幌大通公園	1	12	12	0	3
	札幌ライラック	2	14	13	-1	4
	新 札 幌	3	24	25	1	5
小 計		329	326	-3	26	
6	岩 内	1	26	27	1	1
	倶 知 安	2	33	32	-1	3
	小 樽	0	72	73	1	3
	小 樽 南	0	60	58	-2	3
	小 樽 銭 函	2	15	15	0	1
	蘭 越	3	8	8	0	0
	余 市	0	37	36	-1	3
	小 計		251	249	-2	14

3月会員増減数

クラブ数	69クラブ
期首会員数	2,418人
当月末会員数（女性）	2,402人(170人)
増加会員数	-15人

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			
			'2021.7.1	'2022.3.31	増減	内女性
7	千 歳	3	74	71	-3	10
	千歳セントラル	3	42	44	2	10
	恵 庭	0	45	45	0	3
	北 広 島	3	15	15	0	0
	長 沼	3	16	16	0	3
	由 仁	2	8	8	0	1
	小 計		200	199	-1	27
8	え り も	1	17	17	0	1
	三 石	1	11	11	0	0
	様 似	1	14	14	0	1
	静 内	4	64	64	0	4
	浦 河	1	20	19	0	2
	小 計		126	125	0	8
	9	伊 達	0	61	60	-1
室 蘭		1	30	30	0	2
室 蘭 東		2	31	31	0	2
室 蘭 北		1	52	52	0	2
登 別		2	26	26	0	1
洞 爺 湖		1	11	11	0	1
小 計			211	210	-1	10
10		函 館	1	57	64	7
	函 館 亀 田	1	33	33	0	4
	森	1	33	33	0	0
	七 飯	0	15	15	0	0
	長 万 部	1	10	10	0	0
	函館セントラル	2	23	22	-1	2
小 計		171	177	6	8	
11	江 差	2	9	10	1	1
	函館五稜郭	1	47	47	0	0
	函 館 東	0	36	36	0	8
	函 館 北	1	17	13	-4	1
	北 斗	2	12	11	-1	0
小 計		121	117	-4	10	
12	白 老	0	30	28	-2	3
	苫 小 牧	1	59	59	0	2
	苫小牧東	3	32	32	0	7
	苫小牧北	0	28	28	0	3
	小 計		149	147	-2	15
合 計		2,418	2,402	-15	170	

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数14名（内女性会員0名）を含む

表紙の解説

我が国の競走馬は、中央競馬会で8,000頭、地方競馬では約10,000頭が登録されており、この馬達の70%が日高地方の牧場で生産されています。

日本中央競馬会の競馬にはレースごとに「格」がつけられ、新馬から始まり、未勝利、500万下、1000万下、1600万下、オープン、GⅢ、GⅡ、GⅠとなっています。その頂点がG1で、「G」はGrade(グレイド)の略です。G1レースには26種類がありますが、中でも八大競争と呼ばれる皐月賞、日本ダービー、菊花賞、桜花賞、オークス、天皇賞(春)、天皇賞(秋)、有馬記念などは馬券を買ったことがない人でも聞いたことがあるでしょう。ハイセイコー号(1970年~2000年)は、地方競馬(大井)から中央競馬に参戦し、皐月賞、有馬記念、天皇賞(春)、日本ダービー等で優勝し、騎乗した増沢末夫騎手が唄った「さらばハイセイコー」が爆発的な流行となった名馬です。



